

第90号 2026年7月14日号

年令

監事 中尾正和



就職で大阪に移り住んでしばらく、運転免許更新となった

。当時、更新は各都道府県の免許センター(?)でのみ可能だった。手続きに際して次の更新時に30才だとわかり、大きなショックを受けた。その後、節目以外に年を取ることに関心がなくなった

た。大阪府の免許センターは門真市にあり、当時のナショナルの工場が立ち並んでいた。近くの派出所で写真枚数を確認(1枚だった)。更新の当日、窓口で、もう1枚の写真は?と質問されて、思わず「そんなバカな!」と言ってしまった。その人に言ったのではないが、頭から湯気を出さんばかりに、「この仕事を30何年やってきて、お客さんからバカと言われたのは初めてだ!」と怒り出す始末。この時に、大阪で相手にバカというのはこの上なく失礼なことだと学んだ。それでも何とか更新手続きは終わった。ちなみに大阪では、普通、「アホ」が使われる。

30才は無事に大阪で迎えて、次は40才。前年11月からJICA 専門家としてインドネシア駐在となる。誕生日は、出張中のジャワ島中部・ジョクジャで迎えた。次に50才。世銀(正式にはIBRD~復興及び開発のための国際銀行)で下水道関係者を探している、と聞いて名乗りをあげた。ワシントンでの生活を夢見たのだが、現実には甘くない。行先はインドとなった。当時、UNDP(国連開発計画)と世銀の共同で「水と衛生のプログラム」がスタートした頃だった。このプログラムは世銀に本部を置き、ケニア、コートジボワール、インドネシア、インド、ボリビアに地域事務所を置く。インドの事務所で日本人を探していて、行先は決まった。そして、1998年

2月に1週間の面接などが現地で行われた。面接最終日は誕生日、家を大事にする国・組織であり、50才の誕生日を祝ってもらった。写真中央に白い顔が二つ、左側が私で右はそのトップ(南ア出身)、右端はバングラデシュ出身、後はすべてインド人である。



そして60才、これも出張先の پاکستان・カラチ。年をまたぐ3カ月くらいの出張だったと思う。それくらいの期間だと、着替えのほかに炊飯器、無洗米(180gr パック)、様々な缶詰などを持参する。さらに紙パック焼酎など。なお、カラチでの大晦日はカラチ歴30年という元商社マンのご自宅で、紅白を見ながら日本食のごちそう、酒、麻雀を楽しんだ。

70才の時はどこで?とひそかに期待していたのだが、何も起こらなかった。あと1年半で80才。過度に期待せずに待つことにしよう。

2026年度活動報告

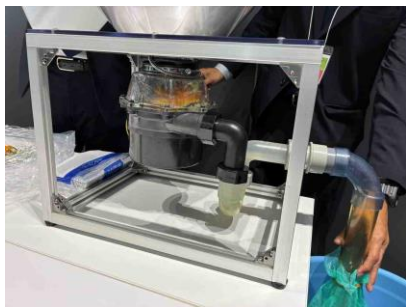
「ディスポーザ サミット in 九州」報告

理事 秋山礼子

6月13日(土)福岡市の警固神社事務所ビルで開催された。主催は、NP02 21世紀水倶楽部・日本大学生産工学部土木工学科・福岡女子大学エコライフスタイル学研究室・西日本新聞社・TVQ九州放送。後援は、国土交通省・日本下水道協会・熊本市・中間市・大村市・九州経済調査協会・九州商工会議所連合会・福岡中小企業経営者協会連合会・GKP チーム九

州。参加者は、会場 86 名、オンライン 50 名、合計 136 名であった。

サミット開会前には、ディスポーザのメーカーによる実証実験が行われ、繊維質のパイナップルの皮を細かく砕き製品性能の高さを披露した。全国の公共下水道においてディスポーザ排水処理システムの設置を認めているのは、17 自治体にとどまっている。



サミットでは「下水道と DSP について」「これからの社会における DSP の価値」「DSP の普及促進に向けて」の 3 つをテーマに掲げ、日本大学の森田弘昭教授より「我が国の直投型 DSP について」、福岡女子大学の豊貞佳奈子教授より「生活者視点からの直投型 DSP への期待と注文」と題した基調講演があった。

パネルディスカッションでは当倶楽部の栗原秀人理事長が進行を行い、中間市の福田健次市長より「ごみの減量化を目的として社会実験を開始しておよそ 5 年が経過しているが、問題

の報告はない。」、大村市の園田裕史市長より「ゼロカーボンシティ宣言に基づき、生ごみの減量と再生可能エネルギーの創出による循環型社会の構築を進めている。」、熊本市の大西一史市長より「ディスポーザの導入は焼却炉の長寿寿命化に繋がる。また役所職員の高齢化により、行政サービスのコスト削減や効率化が急務であり導入は助かる。しかし、油分の処理、下水道管のつまりや河川の汚濁など不安要素もある。」など、推進と慎重の様々な意見を交わし有意義な討論となった。

最後に、豊貞教授より「若い世代に良さを伝えていきたい。」、森田教授より「お三方の市長に勇気づけられた。」とのお話があった。進行の栗原理事長より「ディスポーザについての説明の必要性和、ごみ出しをする市民にとってどのようにメリットがあるのかを考えていただく話し合いの場をスタートしていきたい。」とまとめの話があった。

ごみステーションによる熊被害の多い地域では、ディスポーザ導入の検討があっても良いのではないかと思います。

越谷市立大袋東小学校下水道教室

理事 押領司重昭

6 月 30 日に大袋東小学校で出前授業として、「よごれた水はどうやってきれいになるの？」をテーマに下水道教室を開催した。4 年生の社会科の一環として 3 クラス 78 名を対象に 1 階の調理教室において授業を行った。クラスごとに 1 回 45 分の授業を 3 回行った。

内容は、座学（水の使われ方、下水のゆくえと下水処理の仕組み、微生物の種類）、紙芝居（クマムシくんと仲間たち）、活性汚泥微生物の顕微鏡観察及び体験学習のツマラン管の実験を行い、最後に環境を守るために水を汚さない生活の工夫についてみんなで考え授業のまとめをした。



今回の下水道教室への参加者は、埼玉県下水道公社から 3 名、NP021 世紀水倶楽部から 4 名、水コン協関東支部から 3 名、彩の国下水道同好会（県・さいたま市・下水道公社 0B）から 7 名、メタウォーター株式会社から 4 名の計 21 名でした。

昨年は、顕微鏡観察とクマムシくんとクマニャンコちゃんの着ぐるみを見送ったが、今年は、従前のカリキュラムを実施することができた。

顕微鏡観察では、クマムシをはじめ様々な微生物を直に観察



することができ子供たちは興奮していた。ツマラン管の実験では、トイレットペーパーとティッシュペーパーを別々のペットボトルの水の中に

入れてよく振った後、実際に流して流れの違いを観察した。子供たちは、ペットボトルを両手で持って夢中になって振っていた。また、両ペーパーの流れ具合の違いも実感していた。

この出前授業は、5 つの団体が連携して行うもので、この点からも価値があると思う。子どもたちにも好評でしたので、来年も是非、大袋東小学校におじゃましたいと思います。

富樫俊文監事

この度の通常総会において監事を拝命いたしました富樫俊文と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、日本下水道事業団に三十七年間勤務し、一昨年度末に退職いたしました。JSでは、他の皆様とはやや異なる経歴を歩んでおり、業務の約



半分を情報関連部署で、約四分の一をプロジェクトマネジメント室で従事してまいりました。いわゆる JS の主要業務である設計・施工監理には、入社後の約五年間のみ携わった程度で、土木職として採用されているが、それでよいのかというご意見もあったかもしれません。しかし、自身の適性にも合致していたこともあり、ストレスなく現役時代を過ごすことができました。

振り返れば、私の業務のバックボーンとなったのは「データモデリング」でした。三十歳頃、アメリカ国防総省由来の手法である IDEF1X（アイデフワンエックス）に出会い、ビジネスルールをデータモデルとして表現できることに大きな衝撃を受けました。この手法を活用し、JS 業務のデータモデリング化を進めた結果、プロジェクトマネジメントという概念が自然と導かれました。

当時、建設省でもプロジェクトマネジメント導入の動きがあり、その影響もあったのかもしれませんが、JS に正式に導入された際には、人知れず達成感を覚えたことを記憶しております。現在も JS にプロジェクトマネジメントの仕組みが残っていることから、一定の貢献ができたのではないかと感じております。

その後も、データモデリングの観点を持ちながら日々の業務に取り組むことで、仕事の質が一段上がったのではないかと自負しております。

以上のような経歴でございますので、実は下水道そのものについては、必ずしも十分に理解しているとは言えません。二十一世紀水倶楽部への参加を機に、改めて下水道について学び直し、皆様のお役に立てるよう努めてまいりたいと存じます。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

徒然水草 其之拾四 「AI は邪悪な意思を持つか？」

嫌気好気法師

もう長い間、映画館に行っていないが、映画を観ない訳ではない。観るのは海外出張の機内だ。長時間のフライトだと往復で4本は観られる。新作も観られる。筆者はスターウォーズもジュラシックパークも機内で観た。

数年前の海外出張でも機内で映画を観ることにした。どんな映画が評判なのか、全然わからなかったが、「M3GAN」*（ミーガン）というタイトルが何となく目に止まり、あまり期待もせず、この映画を観ることにした。

ところが、これが「大当たり」だった。あらすじは、玩具会社勤務の女性エンジニアが交通事故で両親を失った姪ケイディの為に少女型 AI アンドロイド「ミーガン」を作る。ミーガンは孤独なケイディに寄り添い、守っていたが、やがて暴走を始め、ついには・・・という内容だ。愛くるしい少女姿のミーガンが次第に狂暴化してゆく過程は恐ろしく、良くできた SF ホラー映画だった。日本でも公開されて結構ヒットしたらしい。

さて、最近の海外出張時、機内映画で「ミーガン2」を発見、期待して観たが、残念ながら「二匹目の泥鰌」はいなかった。相当製作費をかけたようだが、やたら爆発シーンばかりの駄作だった。米国での興行成績が振るわず、日本では公開されなかったらしいが頷ける。

AI の暴走は SF 映画では定番だ。古くは「2001 年宇宙の旅」で、コンピュータ HAL が宇宙船の乗組員を殺害しようとする。筆者は高校生の時、これを田舎の映画館で観たのだが、木星に向かうシーンで突然、館内照明がつき、スクリーンが閉じ、「本日の営業は終了です」と映画館を追い出された。このため、何だか中途半端なラストだったかと、ずっと思っていたのだが、最近、実はまだ続きがあったことを知り衝撃を受けた。筆者は「2001 年宇宙の旅」を見終わってなかったのだ。

閑話休題、AI が暴走し、人類に危害を加えるのは映画の世界だが、最近ネットを手軽に AI と対話でき、質問には瞬時に答えてくれる。本来は検証が必要なのだが、鵜呑みにすることが多いだろう。AI との対話の結果、自殺してしまった事件、AI に相談の結果、親子喧嘩が大騒動になった事件、果ては AI と結婚というニュースを目にすると、もし、AI に邪悪な意思があれば、対話により人間を次第に「茹で蛙」にし、自在に操ることも可能だろうと思う。

AI が体を持ち自律的に行動するフィジカル AI も登場し、映画のアンドロイドは現実になりつつある。これからの AI 社会

が平和なものであることを願うばかりだ。

*”Model 3 Generative Android”の略



人類に牙を向く AI(生成 AI 作成)

編集幹事のあと整理

- 秋山理事の福岡シンポジウム報告文。最後の DSP による熊対策、グッドアイデアです。
- 村上嫌好法師からの其之拾四。長距離航空路線の機内時間つぶしの映画鑑賞。私も苦勞しています。どのエアラインでも新作を数多く揃えているようですが、原作そもそものハリウッドものは大ヒット作の続編「2 匹目のドジョウ狙い」が多すぎてかえって見る気を失わせられます。
- 会員日よりコーナーへの投稿を募集しています。投稿はいつでも受け付けます。直近の号に掲載します。投稿要領などは望月から毎回お出ししている原稿依頼メールをご覧ください。

編集幹事・望月